

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.4 8

開催地：相良村

平成 19 年 11 月 12 日（月）、相良村新村公民分館において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

同報告会には、約 40 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

村内	29 名
村外	8 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小委員会について、他の 1 級河川では 2～3 回のところを球磨川では 11 回開催されて、丁寧に審議されたとのことだが、国交省が原案を作り、国交省が指名した学識経験者で審議し、委員長は元河川局長である。このような委員会では、ダムを前提とした方針が決まってしまう。知事は了承できないとしており、地元の意見を無視した委員会はやり返すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針は、球磨川における長期的な河川整備の目標等について、様々な分野を専門とされる方々で構成される小委員会において丁寧かつ慎重にご審議いただきつつ、全国の他の一級水系のバランス等を考慮して定められたものです。 具体の整備内容等を定める河川整備計画の策定にあたっては、必要に応じて関係住民の意見を反映させる措置を講じるよう法律に定められており、今後とも住民の皆様のご意見をお聴きしていきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 小委員会資料で我々が出した意見書を「感情的な反対意見」として整理されたことは非常に失礼。訂正願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告会での配付資料につきましては、小委員会で使用された資料の分類方法に準じて整理させて頂いています。ご理解をいただければと存じます。
<ul style="list-style-type: none"> 計画策定の段階では地元の意見を十分に聴くと理解してよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体の整備内容等を定める河川整備計画の策定にあたっては、必要に応じて関係住民の意見を反映させる措置を講じるよう法律に定められており、今後とも住民の皆様のご意見をお聴きしていきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> (直接) ダムの説明がないが、ダムを推進している説明のように聞こえる。ダムを造ったら大変なことになると考えているがどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針は、長期的な河川整備の目標等の基本的な方針について定めたものであり、ダムの整備など具体の治水対策については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくことになります。
<ul style="list-style-type: none"> 知事も国に対しては説明責任を果たせ、と言っている中、相良村は「施設は貸さない」などと言って、(村民を) 一方的に押さえつけようとしている。私たち村民にも国交省の説明を聞く権利がある。この報告会が開催されるに至ったことを大いに歓迎する。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告会開催にあたり、地域の方々にご協力をいただき感謝しています。報告会で頂いたご意見等は、今後の川づくり等に活かしていきたいと考えています。
<p>【球磨川の治水対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市房ダム、荒瀬ダム、瀬戸石ダム、これを全て無くして、河川を上流から掃除すればスムーズに流れて水害がなくなると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 市房ダムは下流の洪水被害を軽減するための洪水調節を行っているダムです。荒瀬ダム及び瀬戸石ダムは発電専用ダムであり、ダムからゲート放流を行う際には、下流の水位上昇を見ながら急激な水位上昇とならないように操作するよう規則を定めています。

	<p>ることから、本来、水害被害を助長するようなことはありません。</p> <p>一方でダム操作に対するご懸念もあることから、河川管理者として更なる的確な指導等を行っていきたいと考えています。</p>
<p>・ S38 年から 3 年連続水害被害に遭い、家屋の浸水だけでなく、3 年連続で水田が流出した。その後、川幅が広くなり、築堤されたが、その際に、下流域住民の生命財産を守るために、ということ、この地域の農地は全部河川の中に取り込まれてしまった。人吉市内では 2 倍以上の川幅になるような河川改修がされてきたが、人吉から球磨川下流を考えると、そうした河川整備は今後不可能ではないかと思う。</p>	<p>・ ご指摘のとおり、今後、掘削や引堤等により河道で安全に流しうる流量を大幅に増加させることは、自然的・社会的な制約を考慮すると限界があると考えています。</p>
<p>・ これまでの洪水調節の操作・放流を含め全ての説明が、川辺川の流域の住民の立場ではなく、洪水を全く理解していないと受け取れる内容である。洪水の状況を経験している立場から聞くと、国交省の説明は幼稚である。私は川辺川について全て理解しており、平成 17、18 年水害についても理解している。報告会での説明には、全く逆の見解である。</p>	<p>・ 今後とも、水害を体験された方などからしっかりと話しをお伺いしていきたいと考えています。</p>
<p>・ 球磨川のダムは全て壊して欲しい。球磨盆地にはくま川鉄道沿いに活断層があり危険である。川辺川ダムの予定地は地盤が悪く（ダムを造っても）真先に壊れてしまう。天然災害はやむを得ないとしても、ダムがあることで人災が起きる。</p>	<p>・ ダムなどの具体の施設については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。地質に対するご懸念については、検討の際の参考にしていきたいと考えています。</p>
<p>・ 荒瀬ダムの撤去は喜ばしい。市房ダムと川辺川ダムには反対。市房ダムは構造を必要最小限にして欲しい。</p>	<p>・ 市房ダムは洪水調節に加え、水が少ない時には幸野溝や百太郎溝から取水されている農業用水の補給等も行っており、地域の農業に貢献しているところです。</p> <p>ダムなどの具体の施設については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。</p>
<p>・ ダムは（洪水を）調整するというが、調整は人が行うものであり、誤作動もあるかもしれない。</p>	<p>・ ダム操作に対するご懸念については、今後、河川整備計画を策定する際に、参考にしていきたいと考えています。</p>
<p>・ 河床の堆積した砂利を取り除けば、あるいは堤防の高上げで治水は十分だということ、ダム建設が必要なくなり、十分な治水効果が得られるならば、それに越したことは無いと思う。しかしながら、何が何でもダムはダメということではなく、いろいろ検討した結果、他に良い案が無いという場合には、ダムというものも一つの選択肢ではないかと思う。</p>	<p>・ 治水対策を考えるうえでは、できるだけ河道内で洪水を安全に流すことが望ましいと考えています。しかしながら、自然的・社会的な制約を考えると河道で安全に流し得る流量には限界があります。</p> <p>このため、河川改修に加え、ダムや遊水地等の洪水調節施設で対応することも必要になります。</p> <p>なお、具体の施設については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。</p>
<p>・ 川内川において発生した昨年洪水について、鶴田ダムの放流によって洪水が増幅されて被害に遭った、とおっしゃられている方の話を聞くと、今までは床下浸水ぐらいまでしかなかったのに、昨年の洪水、時には一気に軒まで水が上がったということだった。その話から、ダムというものはある一定以上の雨が降ったときは非常に危険であると感じた。ダムで洪水を守るという方法は、非常に危険であると思う。</p>	<p>・ 当時の鶴田ダムの洪水調節は、最終的にはダムへの流入量と放流量がほぼ同じになりましたが、それまでの間は、ダムへの流入量の一部をダムに貯めることで下流に少なく放流し被害を軽減しています。また、ダムの働きのより、下流の洪水のピーク時刻を遅らせることができ、救助活動の時間を作ることが出来ました。</p> <p>これらのダムの効果や放流情報等については、まだ十分にお</p>

	<p>伝えできていないのではないかと認識しており、今後も様々な機会を通じて説明していきたいと考えています。</p>
<p>【球磨川の環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムで止められて、鮎が遡上できない。ダムのせいで鮎がいなくなった。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・H17年の台風以降、川辺川が大変濁る。この濁りの原因がどこにあると考えているか。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・(ダムが原因で)きれいな水に棲む魚がいなくなり、汚い水に棲む魚が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球磨川には古くから発電や農業用水を取るために堰やダムがあります。発電や農業には非常に役立っていますが、一方で堰やダム等の横断工作物を造ると魚の行き来がしにくくなります。そこで、少しでも魚が行き来できるように堰やダムに魚道という魚の通る道を設置してきました。これまでに、魚道では多くの種類の魚が確認されている一方で、うまく機能していない箇所もあることから、今後関係機関とも連携をとりつつ、改善していきたいと考えています。 ・近年の台風等による豪雨で山腹崩壊が発生して大量の土砂が河川内に流入し、川の濁りが発生しています。山腹崩壊に伴う河川内への土砂の流入による濁水対策については、河川管理者のみならず、林野庁や熊本県等の関係機関が情報を共有し、連携して対策を進めていく必要があると考えています。 ・球磨川の水質を悪化させている原因としては、生活スタイルの変化など様々な要因がありますが、近年では、台風による豪雨で山腹崩壊が発生して大量の土砂が河川内に流入し、濁りが発生しています。 昔の球磨川のようにきれいな川に戻すことは、なかなか難しいことですが、子供達が安心して遊べるような球磨川となるよう、今後も関係機関や住民の方々と連携して環境の改善に努めてまいりたいと考えています。
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮にダム案となった場合には、ダムの水を最大限に活用するという事を農家としては考えているので、そういうこともいつも念頭に置いて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川辺川のかんがい事業については、平成19年1月に九州農政局より川辺川ダムに水源を求めないとの回答をいただいているところです。 国土交通省としては、川辺川のかんがい事業について、今後の状況を見守っていきたいと考えています。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。